

## 3月にSGH大学訪問、現地フィールドワークを実施しました。

### SGH発展学習（国内大学との連携）

～国際政治・外交、日本の国際貢献を考える～

#### 平成30年3月3日（土）広島大学平和科学研究センター、広島平和記念資料館

##### 《目的》

大学の研究機関で講義を受け、現地フィールドワークを行うことで、課題研究テーマへの興味・関心を喚起し、課題研究テーマの理解の深化につなげると共に、次年度の課題研究につなげる。

##### 《内容》

**広島大学平和科学研究センター**を訪問し、同センター長の川野徳幸教授から、「**原爆被爆被害の概要**」という演題で講義をしていただきました。被爆者に対する調査から、放射線のリスク、被爆者援助法についてなど、社会学・医学等の観点からお話をいただきました。**広島平和記念資料館**では、核開発から核廃絶への取組や、遺品などの展示を見学し、**原爆・核兵器、平和**への取組についての理解を深めました。

##### [参加生徒の感想]

原爆のデータの不正確さ、過去の悲惨な出来事をデータとして表すということの難しさを知った。主観的に物事を捉えず、客観視することができるようにすることの大切さを感じたので、課題研究などで学んだことを生かしていきたい。

平和記念資料館の資料の中には、目をそむけたくなるようなものもあったが、原爆に関する知識や被爆された方の思いは将来世代に伝えていかなければならないと分かったので、素直に向き合っていこうと思えるようになった。

二度と原子爆弾を使ってはいけないと改めて強く感じた。未来を残して原爆によって死んでしまった子どもたちや生き残っても家族を亡くして言いきれないほどつらい思いをしている人がたくさんいて残酷だと思った。今日の経験を忘れずに毎日平和であることに感謝して生きていきたい。



川野氏の講義



平和記念資料館の見学

原爆と医学との関係性、原爆があった故に進んだ医学と失われた命の矛盾を強く感じた。私たちが平和に暮らせているのは、過去の人々の多大な犠牲のおかげだと感じた。これを後世に伝える必要性を感じた。

原爆投下直後の広島のことを想像するとぞっとした。ぼろぼろの衣服や焼け焦げた遺品が激しさを物語っていた。教科書ではなく、実際に見ることで原爆の悲惨さや当時の人々の苦しみがとても伝わってきた。日本人として、絶対に忘れてはいけないことだと改めて認識する機会になった。

